

## 月例会ダイジェスト【36】

2016年最後のさんぽ会は、“さんぽ会白熱教室—どう創る？理想の産業保健活動+忘年会”と題し、1年に一度あるかないかの、講師を招かないグループワーク方式で開催された。

今回のコーディネーターは、高倉孝生（ライオン株式会社）、田中格子（HOYAグループOSH推進室）、西埜植規秀（にしのうえ産業医事務所）、山下奈々（株式会社リコー）の4名。

医師、看護職、その他のメディカルスタッフ、人事総務部門、個人事業主（社労士・弁護士）、学生等、様々な背景の人が満遍なく振り分けられたグループが6つ、くじ引きで作られ、コーディネーター他3名が進行役としてそれぞれのグループに入り込む形で進められた。

アイスブレイクとして、自己紹介と自分の所属する会社あるいは学校の良いところを3つ発表するところから始まり、本題の産業保健活動の話題へと進めていく。

今回用いたのは、マンダラートという手法。3×3のマス目の中心にテーマを書き、そのテーマから連想するアイデア・考えを周り8マスに埋めていくというものである。今回は1テーマ1枚の8マスで完結したが、これを軸にさらに周りに展開すると仏教の曼荼羅のようになるところからその名がついている。1つ目の課題は「今年自分が頑張ったことの背景や原動力は何だったか」。2つ目の課題は、「その頑張ったことは会社・職場・対象者のどんなところに役立っているか」。

先輩が皆退職し一人職場になってしまった看護職、病気になる人を診るより病気になる予防にこそ意義があると産業医になったという医師、幼い子供を抱えながら就職活動をしているという保健師、仕事の傍ら研究



活動をしている大学院生等、参加者の立場は様々。普段から話せる相手がいなかったために言えなかったことが話せたり、あるいは、他職種と話すことにより、自分の活動のヒントを得られるのではとの期待の中、活発に話を続けていた。そこかしこで笑いが起こり、和気藹々とした雰囲気では進行した。中には休憩時間も惜しみ、ディスカッションを続けているグループもあった。

休憩時間の後も、グループワークは続く。3つ目の課題は、人事総務部門の人へは「良い産業保健スタッフの基準とは？ 魅力的な人材とはどんな人なのか」。また、それ以外の人へは「採用担当の立場だったら今の自分の立場に何を求めるか？」というもの。この課題への回答は、1グループ1分スピーチという形で代表者がそれぞれ発表した。この短い間にも、グループごとに特性が出てくる。「話ができる人」「協調性のある人」「バランス感覚のある人」「産業保健職だけでかたまらない」「日経新聞を読む」「コストと効果を考えて行動せよ」「1保健師である前に1社員であれ」「対組織に強い人」という意見、「産業保健部門が人事部所属であるところが多いので、会社の経営にプラスになることを考えるということが大事」等の意見が挙がる中、「産業保健職はやる気のある人が多いので、逆に上司がそれを活かせるようにしてほしい」という意見、「最終的には顔。第一印象の笑顔。髪をショートにしたら就職が決まった。活発な印象を受けるのでは？」と明るく発表するグループもあった。

最後に、「本日のディスカッションを通じて、明日から実践したいこと」をグループごとで話した後に、コーディネーターのまとめで終了した。

「これで、お開き」と幹事の宣言があった後も、会場を立ち去るものは少なく、名刺交換や個々の議論等が続いていた。

今回のさんぽ会では、明確な答えの得られるテーマはなかったかもしれないが、参加者はいつも以上に大きな収穫があったようだ。この後に開催された忘年会でも様々な話に花を咲かせたに違いない。

